第 29 回　番組審議会議事録概要

１．開催日時

令和 7 年 9 月 29 日（月）　午前 10 時 30 分より

２．開催場所

東京都港区台場 2-4-8　フジテレビ本社　会議室

３．出席者

委員長　：吉岡忍

委員　　：渡邊健一、池田哲雄、宮崎美紀子、砂川浩慶、笹田佳宏、長谷川晶一

株式会社サテライト・サービス

渋谷謙太郎、永竹里早、窪田正利、落合祐輔、武井俊人、森本聡

ワーナーブラザーズ・ディスカバリー　　高山真詩、オオタニ ジュリオ弥

JCOM 株式会社　　斎藤弘之

CJ ENM Japan 株式会社　　三澤法夫

株式会社フジテレビジョン　　関岡扶嵯子

株式会社千代田企画　　三宅恵介

４．議題

１）　「激撮！警察カーチェイス　シーズン２」

ディスカバリーチャンネルにて令和 7 年 9 月 9 日放送

２）　「はやく起きた朝は・・・」

フジテレビ TWO ドラマ・アニメにて令和 7 年 4 月 13 日放送

３）　その他　報告事項

審議に先立って渋谷社長から以下の報告があった。

・今年 6 月の株式会社サテライト・サービスの株主総会および代表選任取締役会にて、石井浩二代表取締役社長が退任し、私、渋谷謙太郎が代表取締役社長に就任した。

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

■「激撮！警察カーチェイス　シーズン２」について

・ 日本でも「警察もの」の番組があるが、日本ではなかなかできない規模。スピード違反しているだけでヘリが出動しているのもすごいが、ヘリからの撮影映像が全部コンピューターで制御されて、違反している車を検知するのはすごい。カーチェイスが面白いだけなく、アメリカという国はどうなっているのか？と思いながら見ることができる番組。
・ ヘリからの映像とか、パトカーの車載カメラの映像なので、そんなに見やすいものではなく、全体に画面が揺れたりぶれたりするが、これが意外と臨場感があって見やすい。
・ 警察ヘリがすごい電子機器を積んでいるが、あと十年もしたら大型のドローンで全部撮影できて、それがリアルタイムでテレビに送られてくるのではないかとも感じた。
・ アメリカは警察が海上保安部隊などとすぐに連携できるので、それらを総動員して犯人を捕まえるとことができる様子がよくわかる。日本では大事件が起きても橋を一個閉鎖することさえも管轄の違いで簡単にはできないようだが、こういう連携の早さは日本も学ぶべき部分があると感じた。
・ テレビ番組として要求されるものとしては、ニュース性、ドラマ性、オリジナリティといった要素があると思っているが、この番組はそれが全部ある。
・ アメリカでないとできない、カラッとしている番組。あっけらかんとした勧善懲悪という見せ方や、カーチェイスを前面に出しているところが、アメリカらしいな感じた。
・ 吹き替えがうまい。もしこれが字幕だったら目まぐるしく動く画面の中でさらに字幕を追わなくてはいけないので見づらかったと思う。吹き替えの文章も練れているし、声優さんたちも上手で、間合いがよく、文化的な違いの背景までわかる作りになっている。
・ 画面の左半分がパトカーからの映像で、右半分が空中からの映像になっていて、その両方を同時に見ていると、テレビゲームのモニター画面を見ているような感覚になる。最初はそのどちらも見なきゃいけないと思ってかなり疲れてしまった。
・ 警察官が回想しながらこの事件を語っていくが、「市民を守る」とか「市民の安全」というものを何回も喋っているのは、「正義の警察官と悪い犯人」といった演出がされているように思う。その一方で最後に事件を解決したときに「とてもいい気分」と言っているところに違和感がある。これはどこまでが演出なのだろうか？
・ 逮捕されたのが有色人種だと画面がボヤかしているが、白人だとはっきりと見せているのは、人種差別につながらないような配慮をしているのでは。これはアメリカらしい番組を作るうえでのルールみたいなものがあるのではと感じた。
・ 日本の警察ものは最後に犯罪者の哀れな面だとか人間ドラマが入ってくるが、この番組の犯人は薬物が見つかったから逃げるという話ばかり。ただアクションを楽しむ、それ以上でもそれ以下でもないコンテンツだと思って、楽しく拝見できた。

・ 最後に逮捕された後、「裁判の結果は懲役何年になりました」というナレーションの説明しかなく、ちょっと肩すかしをくらった感じ。もう少し犯人の人となりなどの補足説明が欲しかった。翻訳ものといえ、どういう理由で犯人が麻薬をやったとかなどの補足取材が足りない。
・ このような素材の有無は警察の人しかわからないはずなのに、どうやって番組を作るのだろうか？メディア側が何か意図してというよりも、そもそもそういう事件が起きて、素材が撮れて、警察側から面白いものがあるよ、みたいなことなのか？ディスカバリーチャンネルと警察との関係などをぜひ教えていただきたい。
・ ヘリからの映像だとか、パトカーにのっけたカメラの映像なので、そんなに見やすいものではなく、揺れたりぶれたりするが、これが意外と見やすい。
・ 何かここからアメリカ社会とか銃社会とか学びを得ようと思ってみたが、ひたすらカーチェイスが面白いうえに、そこにナレーションがうまく、その追跡劇そのものが面白くて、あまり学び的なものは得られませんでした。

委員からの意見に対し制作サイドから（ディスカバリーチャンネル　高山真詩氏）

・ 一昨年放送したシーズン１が思いのほか好評だったので、シーズン２を放送した。
・ アメリカでは配信と放送の両方で提供され、全体で 580 万人ぐらいの視聴者がいて、寝年間で第３位ぐらいの人気のコンテンツだった。カーチェイスものや警察密着ものは、ある程度アメリカの方でも需要があるのかなと思う。
・ 評価いただいた吹き替えはディスカバリーチャンネル向けに長年吹き替えの制作をしている会社が手掛けている。安心して任せています。
・ どの程度の演出があるのかなど、制作の裏側は日本ではわからない部分があるが、ある程度カメラの前に警察官が出てきて語るという部分は演出もあると聞いているが、リアルな現場の警察官の生の声が、聞けるという点も見どころなのかなと思う。
・ ディスカバリーチャンネルと警察がどういった関係かという点については、お答えできる立場にはありませんが、おそらく警察がもともと持っていた映像を取材の過程で制作会社が調べていって、使えるのか使えないのかの判断をしたのかなと思う。
・ 補足説明が足りないというご意見はごもっともで、一つには話している人がどういう立場の人かについて、画面には英語のテロップが出るが、日本語のテロップは権利の問題で出せない。この人が車に乗っている人なのか、ヘリの人なのかがわかりづらい。
・ その犯人の人となりだとか。その捕まった後どうなったのかといった補足説明は最後にあればいいのかなとは思うが、カーチェイスの面白さというのと、そのアメリカのリアルな今を見せる番組なのか？といったところです。
・ 非常に情報量が多いので、最初からずっと観ていると、疲れてしまうこともあるが、特にこの第一話のように、ものすごいスピードで逃げていくのを延々撮っていくカーチェイスの迫力がこのシリーズの見どころだと思っている。

■「はやく起きた朝は・・・」　について

・ 地上波で番組を見ていたが、この空気感はだてに作れるものではない、すごくいいものだと思う。この三人のトークが日常的な話だが、男性女性問わず聞いていて空気感がほんわかした感じになり、朝見るのにふさわしい番組だと思った。
・ 変な言い方だが、テレビ番組だけど、テレビっぽく作ってないのが面白い。三人が話している時は、必ず相手の顔をちゃんと見て話している。普段はそれが当たり前のことだが、三人ともきちっと普通に話していて、会話の中で「うんうん」とか「そうだね」という言葉が出て、まさに近所のおばちゃんが井戸端会議をしているのを観ている感じ。多分、視聴者もその井戸端会議に参加している雰囲気で観ているのかなという気がした。
・ 32 年前に私が若いお母さん向けの雑誌の編集をしていたときに、読者の「好きな番組」「欠かさず見ている番組」として前々身の番組を毎回観ていた。30 年たって今回久しぶりに番組を観たが、タイムスリップしたような、久しぶりに親戚のおばさんにあったような感じがした。でも皆さん老眼鏡をかけていて、ご結婚して、あるいは別れて、あるいは海外移住をして遠距離で暮らしてとか、そうした 32 年にわたる、それぞれお三方の女性として、人間としてのいろんな歴史みたいなものを感じた。おそらくこの番組をずっと見てきた人にとっても、もう身内を見ているような感覚なのではないか。
・ 視聴者からハガキをいただいているところはラジオみたいだが、それだけでなく一人が喋っている間に、別の人の面白いリアクショがあればそれを映像でちゃんと入れているところは、テレビの作りとしていいところなのかなというふうに思った。
・ 話の展開を自然にやっているように見えて、全部演出が計算していると思う。普通だと、うまく話が流れないから途中でＶＴＲ出したりしてしまう。「小堺一機のごきげんよう」では。サイコロ転がすだけで次の話にポンと変わっていって VTR などない演出だったが、そうした緩いようでいていい加減な作りではないのはフジテレビのお家芸だと思う。そういういうものを若い制作者が継いでいってほしいなという風に思いました。
・ 地上波が忘れているものがすべてある。まず、洋服なのに床に座る日本で唯一の番組。「今時洋服で床に座らないから椅子に座らせよう」みたいに変えちゃうものだが、それを意固地に変えないことで独特の空気感を作っている。さらに VTR がゼロでテロップもゼロ、しゃべりのテロップもゼロで、これは今の地上波ではもう絶対にありえない。テレビって編集前の方がリアルで面白いことは結構あり、ギチギチに短く編集して音楽入れてテロップ入れるとテンポ感は出るが、もともとの面白いものから遠くなる。この番組はそれが一切ないからすごく潔いし、今時これをやろうとする決意はすごい。
・ メールではなく、視聴者からのハガキを読んで、三人でああでもない、こうでもないって話したような、本当に昔のそれこそ萩本欽一さんの番組を彷彿とさせるような、なんか懐かしいな、昔こういう番組っていっぱいあったな、ということを思いながら見ていたら、最後にスタッフクレジットで常田久仁子さんのお名前を見つけて、いわゆる常田イズムみたいなものが残っているのではないかと思った。

・ 私はこの番組ドンピシャの世代で、この三人の出演者は 80 年代の女性が自由になっていって、好きに発言していいよっていう、ありのままの世代を代表した、女性の行動も言論も象徴した番組ではあったと思う。それが「遅く起きた」から「早く起きた」になった時にも、ラジオで鶴光師匠とか吉田照美さんとか深夜放送をやっていたお兄さんたちがリスナーと一緒に年をとっていって、だんだん早起きになって昼の番組の MC になっていくみたいな、何か共感できる部分があった。
・ この番組はテレビつけたときについ見てしまう番組で、特定の層を引っ張る番組ではない、その見本みたいな番組なので、一番 CS 放送に向いてないと思う。この番組を愛している視聴者の方からしたら、CS じゃなくて普通に地上波で今まで通り見たいのでは。CS 放送に移行して視聴者からのリアクションはどうだったか？
・ 途中で公開イベントの話が出てくるが、チケットを購入する人はどのぐらいいるか？
・ この番組がＣＳに引越しした編成の考え方を教えてほしい。
・ 新しいタレントさんでも若い芸人さんでも多分できない番組だ。はがき相談では決して質問者相談者を傷つけない。あれだけ喋っていて、相手を傷つけない話法ってなかなかできるものじゃない。これが全く自然にできているのは、演出もだが、やっぱり何より三人のキャラクターなのだろうと思う。人を傷つけてお笑いとる番組がいっぱいある中、三人の人柄が出ているような素晴らしい番組だなと思った。
・ CS で一緒に放送している過去の放送回はむちゃくちゃ面白い。三人の変わる部分、変わらない部分、でも関係性は変わらない、稀有な番組だと思います。

委員からの意見に対し制作サイドから（千代田企画　三宅恵介氏）

・ この番組は 31 年前に朝 9 時半からの「遅く起きた朝は…」というタイトルで始まり、その二年後には今の視聴者からの不平、不満、愚痴を頂いて、それを元にして話をするという企画になり、当時は女性の駆け込み寺みたいなものをめざしていた。
・ この番組は三人のドキュメント。四番目の出演者と考えている視聴者の方からのハガキをスタッフで全部読んで、選んだものを収録の 1 週間前にコピーを三人にお渡しして、あとはリハーサルも何もなく、三人で打ち合わせも全くしないで本番に入り、何の話になるかもその場次第。ただずっと変わっていない約束事が一つあって、それは「三人が同じ意見になるな」ということ。二人がこれいいねってマルをつけたら、もう一人はバツをつけないと話は展開していかない。ところが三人とも 60 歳前後になり、だんだん優しくなった。CS で再放送している 30 代のころの内容を見ると、当時はネタも本人たちのしゃべることも過激で非常に面白いが、やはり皆さん人生長くやってくると涙もろくなって、いい話しかしなくなっているのは物足りなく感じる点でもある。
・ 三人がスターでもなんでもない、親戚のおばちゃんみたいな感じで、気さくで誰とでも分け隔てなく話をしてくれる、ちょうどいい距離感でスタジオに来て話をしてくれているので、その距離感を保ちながら続けていければいいかなとは思っている。

・ ライブイベントもやっているが、チケットはすぐ完売になる。視聴者の方も三人と一緒に年を重ねてきて、同じような世代の女性の方が、自分のお母さんと娘と一緒に三代で番組を見に来てくれることもあり、番組をとても身近な存在に感じていただいている。
・ 全く CS 向きじゃないという指摘もあったが、確かにすごくコアなファンを持っている三人ではなく、テレビをつけた時にこの三人がいたらなんかほっとするな、という番組なので CS 向きではないかもしれない。先々週の地上波での特番を見た方からも「やはり地上波でやってほしい」「久しぶりに三人に癒された」という声もいただいた。
・ 今後は新しいビジネスモデルというか、放送の形態ができれば面白いかなと。地上波はずっとローカル番組だったが、CS になったおかげで全国の方が視聴できるようになった。日本全国をめぐってイベントと番組を作るとかいろんなことを考えてはいる。確かに CS 向きじゃないからこそ、その CS の良さを活かしながら頑張りたいと思います。

（編成担当から）
・ CS 放送に向いてないというご意見は本当にその通りかもしれないが、一方では CS の中でこの番組を視聴してくれている人はとても多い。有料放送は「いかに加入をしてくれる人を獲得するか」「いかに加入したあとに番組を視聴してくれるか」の二つの柱が重要。長く続けてきた番組を終わらしてはいけないと考えてまずは CS に場所を移している。

（委員長から）
・ 衛星放送のオリジナル番組アワードでいろんな番組を見ているが、長年ずっとやってきた番組よりは、新しいコンテンツでなんとなく尖っていてというものが毎年ノミネートされてくるが、それらの番組の大半はその後も続いていない。いろんな失敗をした上でいいものを作るってことはもちろんあるわけですけども、同時に非常に安定した、このような番組は衛星放送の番組にはない。逆に新鮮に感じる。
さきほども話しにでたように、スタジオだけで終わらずに、地方局の主催で色々な公開収録をするなど、いくつか新しいこと、今までやったことがないことを仕掛けていく必要があると思う。

次回予定
・次回は令和 7 年 12 月開催を予定。
・議題はアニマルプラネットとスペースシャワーTV で放送される番組の予定

以上